



大洲城

歴史とアートが織りなす特別な空間

大洲城下町エリアを舞台にした回遊型アートイベント「OZU ARTS and CRAFTS（アーツ アンド クラフツ） 2026」が、10月10日㈯～25日㈰の16日間開催されました。

10日㈯に開かれたオープニングセレモニーでは、大洲城・臥龍山荘・盤泉荘（ばんせんそう）・旧平田邸を舞台に作品を制作・展示した国内外４人のアーティストが、甲冑・鉄砲隊による演出で登場。大洲藩鉄砲隊による迫力満点の祝砲が響き渡り、開幕を華やかに彩りました。

期間中は、作品展示のほか周遊ツアーや特別夜間鑑賞、ワークショップなどが行われ、来場者は、城下町を巡りながら、歴史ある建造物とアート作品の共演を楽しみました。



臥龍山荘



旧平田邸



食べて、遊んで、大洲の魅力を満喫！

10月12日（月・祝）に「第16回大洲産業フェスタ2026」を開催しました。大洲市の産業や商品の魅力を発信するため、48のブースが出展。約1万5,000人の来場者は、作り手との交流を楽しみながら、大洲の“ええモン・うまいモン”を満喫しました。

会場では、パトカーの試乗や松山工業高校ミニ電車の乗車、日本航空や自衛隊の制服着用体験、木クラフトづくりなど、子供も楽しめるブースも多く、子供から大人まで笑顔があふれるにぎやかな一日となりました。





祝100歳！いつまでもお元気で



大洲市では毎年、100歳を迎える高齢者のみなさんに記念品を贈呈しています。10月16日㈭には、市長が新谷地区の稲田和子（かずこ）さんを訪問し、お祝い状と記念品を手渡しました。

長寿の秘訣を尋ねると、「昔から体が丈夫で、大きな病気をしたことがない。若い頃は栗山などの山仕事で体を動かしてきました」と話す稲田さん。最近は施設の利用者とおしゃべりするのが楽しみだと、笑顔で答えてくれました。

市内で100歳以上の人は９月末現在で56人です。

見て、触れて、科学の不思議を体感！



10月17日㈯、「第28回科学体験フェスティバルin大洲」を開催しました。メイン会場の国立大洲青少年交流の家では、市内外の学校や団体などが、楽しみながら科学を学べる19の体験ブースを出展。サブ会場の長高水族館では、海の生き物とのふれあい体験が行われ、両会場合わせて約1,600人が訪れました。また、国立大洲青少年交流の家主催の「体験フェスティバルin交流の家」も同時開催され、会場は科学の面白さや自然の不思議さに触れる子供たちの笑顔であふれました。





和と洋が織りなす美 盤泉荘100周年



棟上げから100年を迎える盤泉荘で、10月17日㈯・18日㈰の２日間、「上棟百周年感謝祭」が開催されました。盤泉荘は、フィリピンで貿易業を営み財を成した松井氏が建てた別荘で、海外の文化を取り入れた意匠が随所に光る歴史的建造物です。

前夜祭の17日には一夜限りのライトアップ、18日には館内ツアーなどが行われました。18日は大洲市民を対象に入館料が無料となり、訪れた人々は普段とはひと味違う盤泉荘の魅力に触れ、特別なひとときを楽しみました。



華やかな演舞が大洲のまちを彩る

10月18日㈰、「えひめYOSAKOI祭り2026」が開催されました。県内外から集まった約600人もの踊り子が、緑地公園の特設会場や中町商店街、本町商店街を舞台に、華やかな衣装をまとい、躍動感あふれる演舞を披露しました。

踊り子たちは、鳴子の音を響かせながら息の合った踊りで観客を魅了。沿道からは大きな拍手が送られ、大洲のまちは笑顔と熱気に包まれました。







環境に優しいチェーンソーオイルを寄贈

10月22日㈭、愛媛銀行から大洲市へ「生分解性チェーンソーオイル」の寄贈があり、二宮市長が感謝状を贈りました。このオイルは、県内の事業所などから回収した使用済みの天ぷら油を原料としています。微生物の働きで分解されやすく、環境に優しいのが特徴です。愛媛銀行では、オイルの寄贈を通じて森林を未来へつなぐ取り組みを推進しています。

オイルは今後、市内の森林整備などに活用される予定です。



台湾との友好の輪を広げて

台湾文化の普及や国際交流を担う非政府組織「中華文化総会」の李厚慶秘書長が10月22日㈭、市役所を訪問しました。

今回の訪問は、アートイベント「OZU ARTS and CRAFTS」での台湾出身アーティストの作品鑑賞や、本市の観光まちづくりの視察に合わせて実現。懇談では、李秘書長が「大洲の美しい町並みに感動した」と語り、二宮市長は「台湾の嘉義市などとの交流を深め、日台のさらなる交流発展につなげたい」と交流拡大に意欲を示しました。

さまざまなスポーツの楽しさを体感！



10月24日㈯、大洲市総合体育館で「マルチスポーツフェスティバル2026」が開催されました。ボッチャやフライングディスクといったパラスポーツ、ラケットテニスなどのニュースポーツ、フットサルやチアダンスなど、多彩な種目を楽しむことができ、参加した子供たちは夢中になって体を動かしていました。

イベントを企画した地域おこし協力隊の中野海渡（かいと）隊員は、「これからも市民のみなさんがスポーツを楽しめる場を作っていきたい」と今後の抱負を語りました。





地元への想い　明治安田生命が届けます



明治安田生命相互会社から大洲市へ「私の地元応援募金」が寄付されることになり、明治安田生命大洲営業所の徳野翔（しょう）所長など社員３人が10月28日㈫に市役所を訪れ、目録贈呈や包括連携協定を結んでいる当市と協働で進めてきた取り組みを報告しました。

大洲市への応援募金は、令和２年から始まり、今回寄付された1,029,400円を含め、これまでに総額5,196,400円が市民の健康づくり、介護・認知症対策、子育て支援のために役立てられています。

今年で37回目　恒例の大洲まつり



大洲まつりが11月２日㈰・３日（火・祝）の両日開催されました。２日は、子供みこしや市無形民俗文化財「お成り」の巡行が行われました。かつては各町内で見られた子供みこしも年々減少し、今年は新町、若宮の２地区が雨の予報で巡行を中止しましたが、本町１、本町２・３、柚木の３地区では、子供たちが「わっしょい」の元気な掛け声を響かせながら、みこしを担いで町を練り歩きました。３日には肱川緑地で「おまつり村」が開かれ、会場は多くの人で賑わいました。